

事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	コトヒラ工業株式会社					
代表者名	氏名	手塚 久仁彦	役職名	代表取締役社長		
主たる事務所の所在地	長野県東御市滋野乙1320					
主たる事業の分類	大分類	E 製造業				
	中分類	24 金属製品製造業				
主たる事業の概要	ユニットバスの壁・天井パネルの製造 産業用機械装置の製造組立					
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者				
		基準年度実績	最終年度の目標	第一年度報告	第二年度報告	第三年度報告
原油換算エネルギー使用量	k1	1895	1838	2052	2036	2027
エネルギー起源二酸化炭素排出量	t-CO ₂	3915	3798	4242	4189	4155
その他ガス排出量合計	t-CO ₂	0		0	0	0
自動車の台数	台	20		20	20	20
自動車からの排気ガス合計	t-CO ₂	74				

2 基準年度、計画期間及び報告対象年度

基準年度	平成 28 年度	計画期間	平成 29 年度～ 平成 31 年度
報告対象年度	平成 31 年度		

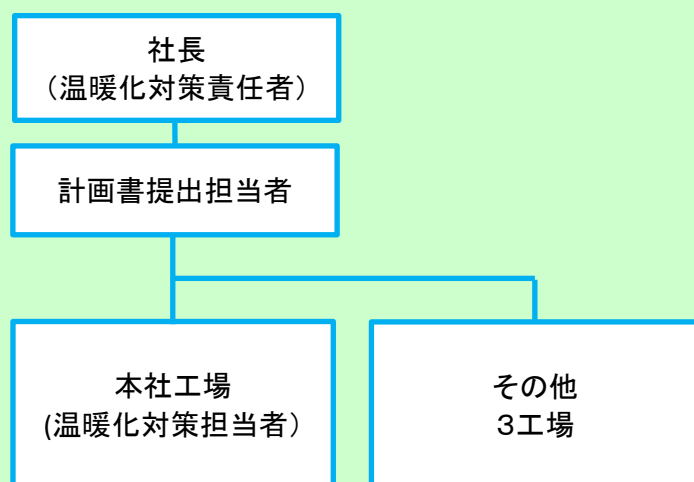
3 計画書（報告書）の公表方法等

<input checked="" type="checkbox"/>	ホームページ	会社情報の「会社・環境活動（CSR）- 環境方針」にて公開 http://www.kotohira.biz/company/society_01.html
<input type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	
<input type="checkbox"/>	その他	

4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

エネルギー使用の効率化を進め、目標年度（平成31年度）に基準年度（平成28年度）の売上高原単位の3%削減を目指す。

5の1 温室効果ガス排出抑制のための組織体制



5の2 温室効果ガス排出抑制のための会議体等の名称及び開催頻度

エネルギー管理担当者を部会長とし、各製造課の管理者と職場の職制、代表者から構成する省エネルギー部会を年間2回開催

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	3,915	t-CO ₂	売上高	107.21	単位	億円	
28年度	調整後排出量	3,894	t-CO ₂	基準原単位	36.52	t-CO ₂ /	億円	
目標年度	目標排出量	3,798	t-CO ₂	目標原単位	35.42	t-CO ₂ /	億円	寄与度の合計から求めた目標削減率 [※]
31年度	目標削減率	3.00	%	目標削減率	3.00	%		
目標設定に関する説明	エネルギー使用の効率化を進め、目標年度（平成31年度）に基準年度（平成28年度）売上高原単位の3%削減を目指す。							※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する（以下同じ）。
第一年度	排出量	4,242	t-CO ₂	売上高	116.63	単位	億円	
	調整後排出量	4,214	t-CO ₂	原単位	36.37	t-CO ₂ /	億円	寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
29年度	削減率	(8.36)	%	削減率	0.41	%		
排出量等の増減理由	<ul style="list-style-type: none"> 生産量が増加し売上高も増加したが、それに伴ってCO2排出量も増加 空調用GHPの更新（本社1,2号棟8台）が完了、推計削減量 42 t-CO2 平成28年11月に新社屋（製缶棟）が完成し順次設備を導入・運転を開始し出したが、まだ本格的に製品の生産をしておらず売上高に貢献していないため原単位の削減率がそれほど良くないものと考えられる。 佐久工場のコンプレッサーの台数制御が上手くいかず消費電力増加 							
第二年度	排出量	4,189	t-CO ₂	売上高	110.00	単位	億円	
	調整後排出量	4,167	t-CO ₂	原単位	38.08	t-CO ₂ /	億円	寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
30年度	削減率	(7.00)	%	削減率	(4.28)	%		
排出量等の増減理由	<ul style="list-style-type: none"> 生産量が減少しCO2排出量は減少したが、売上高も減少したため原単位は増加 空調用GHPの更新（佐久1号棟10台）が完了、推計削減量 22 t-CO2 平成29年11月に新社屋（製缶棟）の増築工事が完了し順次設備を導入・運転を開始し出したが、まだ本格的に製品の生産をしておらず売上高に貢献していないため、原単位の削減率がそれほど良くないものと考えられる。 							
第三年度	排出量	4,155	t-CO ₂	売上高	100.72	単位	億円	
	調整後排出量	4,129	t-CO ₂	原単位	41.25	t-CO ₂ /	億円	寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
31年度	削減率	(6.14)	%	削減率	(12.96)	%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由	<ul style="list-style-type: none"> 生産量が減少しCO2排出量は減少したが、売上高も減少したため原単位は増加 平成29年11月に新社屋（製缶棟）の増築工事が完了し順次設備を導入・運転を開始し出したが、受注が予定より少なく、また今年に入りコロナ流行の影響により全社的に仕事量が減ってしまい、原単位の削減率が良くないものと考えられる。 							

様式1号
(総括票)

6の2エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	基準原単位		t-CO ₂ /		
目標年度	目標排出量	0	t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた目標削減率 [※]
年度	目標削減率		%	目標削減率		%		
目標設定に関する説明								※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第二年度	排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第三年度	排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由								

様式1号
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	74	t-CO ₂			
年度						
目標年度	目標排出量	0	t-CO ₂	削減率		%
年度						
目標設定に関する説明						
第一年度	排出量	0	t-CO ₂	削減率	100	%
年度						
排出量等の増減理由						
第二年度	排出量	0	t-CO ₂	削減率	100	%
年度						
排出量等の増減理由						
第三年度	排出量	0	t-CO ₂	削減率	100	%
年度						
目標の達成状況及び排出量の増減理由						

7 重点対策の実施状況

段階	連番	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I、II	1	燃料使用量等の定期的な把握						
	2	エコドライブの励行						
III、IV	—	次世代自動車の導入						

様式1号
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	対策内容	計画		状況	
			実施 予定年 度	削減見込量 (t-CO ₂)	実施年度	推計削減量 (t-CO ₂)
1	エネ起	330201 コンプレッサで台数制御の改善	H29年～ H31年	55		
2	エネ起	360705 コンプレッサの保全管理	H29年～ H31年	10		
3	エネ起	320101 乾燥炉・焼鈍炉の空気比の管理	H29年～ H30年	36		
4	エネ起	330299 空調用GHPの更新（本社1,2号棟8台）	H29年～ H30年	42	H29年	42
5	エネ起	330299 空調用GHPの更新（佐久1号棟10台）			H30年	22
6						
7						
8						
9						
10						

9 自然エネルギー源利用設備等の導入状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度
太陽光	kW	250	0	250	250	250

10 クレジット等に関する取組状況

クレジットの種類	単位	基準年度	計画期間	第一年度	第二年度	第三年度
グリーンエネルギー証書 (電気)	tCO ₂					
グリーンエネルギー証書 (熱)	tCO ₂					
J-クレジット制度により 創出されたクレジット	tCO ₂					
県が認証したクレジット	tCO ₂					
電気の利用に伴うもの	tCO ₂	25		28	22	26
低炭素電力の利用	tCO ₂					

様式1号
(総括票)

1.1 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出実績 (所、t-CO₂)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上	0		0		0		0	
1,500k1以上 3,000k1未満	1	3,082	1	3,309	1	3,312	1	3,348
1,500k1未満	3	833	3	933	3	877	3	807
合計	4	3,915	4	4,242	4	4,189	4	4,155

1.2 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出実績 (t-CO₂)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO ₂	0	0	0	0
CH ₄	0	0	0	0
N ₂ O	0	0	0	0
HFC	0	0	0	0
PFC	0	0	0	0
SF ₆	0	0	0	0
NF ₃	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

1.3 次世代車使用台数、導入計画及び実績 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車	0	0	0	0
電気自動車	0	0	0	0
燃料電池自動車	0	0	0	0
クリーンディーゼル自動車	0	0	0	0
その他 (ハイブリッド等)	8	8	8	8
合計	8	8	8	8
自動車総数	20	20	20	20
次世代車導入割合	40	40	40	40

様式1号
(総括票)

1.4 中小企業支援状況

区分	内容
中小企業への省エネ診断	該当せず
その他	該当せず

1.5 交通対策状況

区分	実施内容
ノーマイカー通勤	近距離で可能な方に推奨 マイカー通勤率96.3% (314人/326人)
公共交通機関の利用促進	立地上困難
来客者の交通対策	該当せず
物流の合理化	同一目的地への貨物はまとめて発送する。(指定日、緊急性のあるものを除く)

1.6 環境マネジメントシステム導入状況

番号	名称	導入年
1	ISO14001認証取得	2000年
2		
3		

1.7 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度実績	はないっばいコンクール（東御市主催）への参加 社内空地の芝生化
第一年度実績	花いっぱいコンクール（東御市主催）への参加 社内（製缶棟東側）の芝生化
第二年度実績	花いっぱいコンクール（東御市主催）への参加 社内（製缶棟東側）の芝生化
第三年度実績	花いっぱいコンクール（東御市主催）への参加 社内（製缶棟東側）の芝生化

1.8 自由記載欄

区分	内容	削減量(tCO ₂)
基準年度以前の取組み	平成26年度～平成28年度 水銀灯(全社)・蛍光灯(主要作業場)のLED化	215
その他		